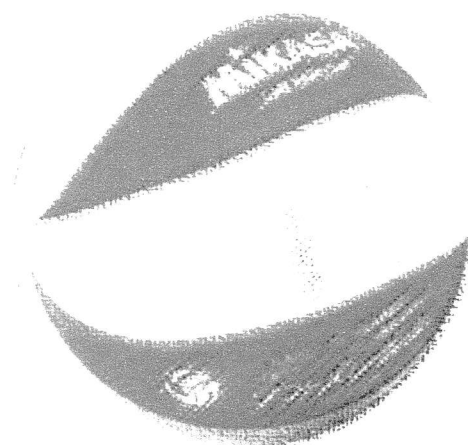


# 宮崎県ミニバレーボール競技規則



宮崎県ミニバレーボール協会

平成29年4月

## ルール制定に当たって

ここに、宮崎県ミニバレーボール協会は、県下統一したるルールの基に大会を催し、会員の健康維持と友愛の輪を広げ、地域の発展に寄与するをスローガンに制定したるものである。

今や、われわれはスポーツを通じ、国境を越え、民族を越えて、全世界の人々の心に触れ、平和の灯を掲げているスポーツに、大なる感動を覚える。

スポーツを行い、スポーツを語ることは、現代人の生活に不可欠なものであり、常識となり、教養とさえなっている。

スポーツは、実際に自分がやって楽しむばかりでなく、他人が見ても楽しさを伴うものでなくてはならない。

そこで、スポーツを楽しむためには、正しいルールの認識と活用が前提となる。

この意味で、ルールこそはスポーツを行う上にも、見る上にも、一つの基準となり聖典となるものである。

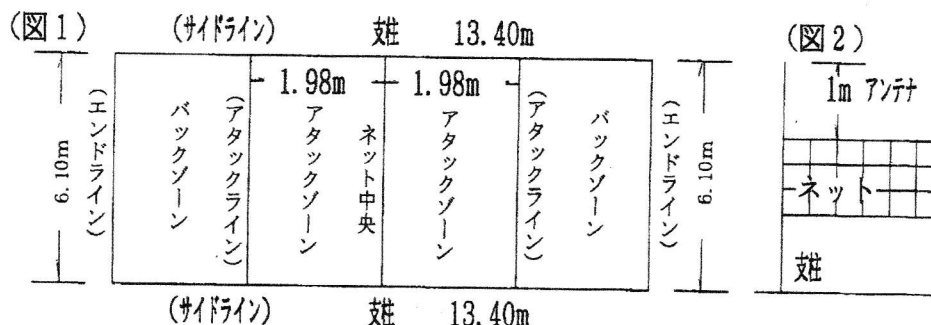
あらゆるスポーツ精神も、運営も、この上のみ成功するものであり、ルールなきところスポーツは存在し得ない。

更に、スポーツを行うものにとっては、ルールのもつ偉大なる使命と、ルールの肝要を認識し、マナーをも大切に人こそスポーツマンと賞賛されるであろう。

## 第1章 施設と用具

### 1. コート

コートは 13.40m×6.10m区画のバドミントン（シングルス、ダブルス兼用コート）もしくは、その区画に設定されたコートを用い、コートを2等分したる中央ネット下より両コート1.98m幅にラインを引きアタックゾーンを設ける（図1参照）。アタックラインはバドミントンコートのサービスラインとする。



### 2. 支柱とネット

支柱はバドミントン用を使用し、コートを2等分する位置の両サイドに設ける。

ネットはバドミントン用、もしくはミニバレーボール用を定められた高さに設ける（表1参照）。

表1 ネットの高さ

女子	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
	200cm	200cm	200cm	190cm	190cm	190cm
男子	39歳以下		40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
	200cm		200cm	200cm	190cm	190cm

### 3. アンテナ

アンテナはソフトバレーボール用、もしくは類似するものを用い、ネット上段から1.00m上方に出るよう、1本ずつ支柱外側に床面に垂直に取り付ける（図2参照）。

### 4. ボール

ボールはソフトバレーボール（重さ 210±10g、円周 78±1cm）を使用し、県大会は白と青色のカラーボールを使用する。

## 第2章 競技参加者の義務行為

### 1. チームの構成

競技者は1チーム最大6名で、年代男女別に基づくチーム編成を原則とする。但し、チーム編成が困難な場合、若齢者チームの中に高齢者を補足することと、同年代男女の混成、女性2名以内の編成も可、但し女性チームとしては認めない。

年齢は、同学年（今年4月2日～翌年4月1日生）とする。

### 2. 監督

監督は審判に対し、競技中断中（ボールデッド時に）チーム競技者の交替、タイムアウトの要求ができるが、審判に対し質問等はできない。また、選手を兼ねることもできるが、第2章の1の規則に準ずるものでなくてはならない。

また、監督が競技者となり競技（試合）に参加中は監督としての資格は失われる。

### 3. 競技者の義務

すべての競技者は競技規則に精通し、それを遵守しなければならない。

### 4. 主将の権利および義務

競技中断中（ボールデッド時に）、主審に対し競技者の代弁者として、主将のみが質問することができる。

また、主将は義務遂行する場合に限り主審・副審に話しかけることができる。

ア. 主審の判定についての質問（主審）

イ. 監督不在のチームとしてのタイムの要求と競技者の交替（副審）

ウ. チームの統御

### 5. 監督、競技者、補欠競技者の禁止行為

ア. 審判の判定に対し、話しかけたり暴言を発する行為

イ. 審判の判定に影響を及ぼす不快な行動や態度、発言

ウ. 審判に対し好ましくない批判をすること

エ. 相手チームの競技者に対し、不快な行動や態度を示すこと

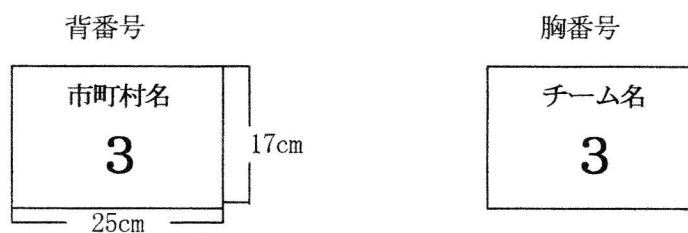
6. 第2章の5のいずれかに該当する行為があり、注意されたにもかかわらず再度禁止行為を行った場合、1点を相手チームに与えられる事となる。

7. 注意を受けたチーム、もしくは競技者が注意を無視し再度禁止行為を繰り返した場合は予告なしにその試合につき、試合没収または退場を命ぜられることがある。

### 第3章 競技者の服装

1. 競技者の服装については強制しないが、競技中に負傷の原因または損傷のおそれのあるものを身に付け、または保持して、もし負傷または損傷などが生じた場合は着用者の責任とする。
2. 競技者は、縦 17cm×横 25cm 幅を最小の大きさの布もしくはユニホームにチーム名を入れた胸番号および市町村名を入れた背番号をつけなければならない〔例題図 2 参照〕。
3. 番号はキャプテンを 1 番とし、1 番以外のキャプテンは、ユニホームの色と識別できる色の腕章をつける。他の競技者については任意とする。（キャプテンが交代した時は主審に申告し、腕章をする。）

〔例題図 2〕



4. 競技者及び審判員は、特別な理由のない限り、手袋・タオル等を巻いてのプレーを禁止する。
5. 試合中のビブスの交換は、してはいけない。

### 第4章 競技の進行

1. 主審による選手集合のための吹笛があった場合、競技者（補欠競技者を含む）は、エンドラインに集合し、主審の指示に従うこと。
2. 主審が選手集合の吹笛後 5 分以内に集合しない場合は棄権とする。（相手チームを不戦勝とする。）
3. 主審による試合開始集合のための吹笛があった場合、競技者（補欠競技者を含む）は、速やかに主審の位置する側近に、主将を筆頭にアタックラインに沿い相互競技者向かい合い整列する。
4. キャプテンはオーダー票を主審に提出する。同時に、4 名以上で編成したチームは、ローテーションの有無を主審に申告する。
5. 両主将は、主審の指示によりサーブ権もしくはコートを選定を決めるためのトスを行い、トスに勝った方の主将が、いずれか一方を選択する。（ネット下で交差）
6. 主審の指示により、審判団および両競技者挨拶を交わし、それぞれコートに散る。
7. 乱打 2 分以内。
8. 監督、補欠競技者は速やかにベンチに下がり、競技に支障のなきようマナーを重んずること。

9. 提出されたオーダー用紙に明記されたポジションに両競技者は位置し、番号を副審に向けオーダー用紙に明記されたポジションとの相違についてセット毎に確認を得ること。相違があり副審より通告があった場合は、直ちに競技者を修正すること。提出した用紙は正常なものとし、そのセットについての用紙は修正できない。
10. コート内の競技者は4名とし、サーバー以外のコート内の競技者は、両競技者とも前衛と後衛、ライト(右)とレフト(左)が、主審のサーブ開始の吹笛後、打球される時点に交差したり(足の位置)、コート外に踏み越してはならない。打球されたその瞬間からは、自分のコート側は自由に行動することができる。
11. 得点はラリーポイント制とする。競技は3セットマッチとし、1, 2セット 21点先取したチームが勝ち、1対1の場合は3セットを行う。3セット目は、15点先取したチームの勝ちとする。順位は、勝率、セット率、得失点差にて決める。(何れも同じ場合は4名によるトスの勝ち抜き)
 

$$\text{① 勝率} \quad \text{② 取得セット率} = \frac{\text{総取得セット数}}{\text{総喪失セット数}} \quad \text{③ 得失点差}$$
12. 交流戦は「リンクリーグ戦」15点3セットマッチとする。

## 第5章 競技中の行為

1. 第1セットのサーブは、トスにて得たチームのライト(右)後衛の競技者がエンドライン後方、両サイドラインの想像延長線内側(サービスゾーン)にて、主審の吹笛後5秒以内に手から離れたボールを打たなければならない。  
それに反した場合は相手チームに得点が与えられる。また、吹笛前に打ったボールは無効であり、改めて吹笛後打球する。(3秒内)
2. 主審のサーブ開始の吹笛があり、サーブのためのトスをあげトスミスし、床に落下するまで体や物体に触れない場合は、もう1回のみ打球することができる。(3秒内) それに反した場合は相手チームに得点が与えられる。  
サーブ開始の吹笛後、ボールを床についても良い。但し5秒以内に行うこと。
3. サーブ権を得たチームは、時計回りにローテーションし、ライト後衛となった競技者がサーブを行う。
4. サーブを行った時点にてサーバーの誤りを発見した場合は、直ちに正常に戻し、サーブ権が移動し、1点得点が与えられる。(アピールプレイ)
5. 第2セット目は第1セット終了後、エンドラインに整列し、主審の吹笛に従いチェンジコートを行う。エンドラインに整列する。(オーダー票に変動のある場合は申告する)  
主審の吹笛後、後攻チームのライト後衛の競技者よりサーブを行う。

6. 第3セット目は第2セット終了後2分以内の休憩タイム中に、主審の指示により両主将トスにて勝ったチームがサーブ（先攻か後攻）を選択する。  
コートは第2セットに使用したコート、競技者はエンドラインに整列し、オーダーに基づくポジションに位置づき、どちらかのチームが8点取得した時点にてエンドラインに整列しチェンジコートを行う。チェンジコート後、競技者は再度エンドラインに整列後、サーブとポジションはチェンジ前のポジションに位置する。15点先取したチームの勝ちにて試合終了となる。
7. レシーブする場合、アンダーパス、オーバーパスまたはウエストから上の身体にてヒットしたボールは有効であり、ヒットされたボールは1人1回3人にて3回目に相手コートにネット以外の物体に触れることなく返球されなくてはならない。  
但し、サーブ球をアンダーパスにて受けた際のドリブルは許されるが、その他のドリブル、ホールディングについては反則となる。
8. 相手からのサーブ球、並びに返球に2人同時に触れた場合1回とみなし、同時に触れた競技者が連続してそのボールに触れることができる。
9. 後衛がアタックゾーン内、若しくはアタックラインを踏みネットより高い位置のボールを相手コートに返球した場合には反則となる。  
後衛の競技者がブロックしても反則とはならない。
10. 選手がインプレー中に、支柱・アンテナおよびネットに触れた場合は反則となる。
11. 頭上後方より、両手で前方へ押し出した時はホールディングとなる。
12. インプレー中はいかなる場合でもネットオーバーした時は、オーバーネットの反則となる。

## 第6章 競技の中断

1. タイムアウトは、ボールデッドの時に限り主審によって認められる。  
ボールデッド時に限り監督若しくは主将は作戦タイムまたは競技者交替のためのタイムの要求が認められる。但し、作戦タイムは1セット1回30秒以内（原則として副審側のコート外で行う）、競技者交替は1セット2回で、交替した競技者はそのセットが終わるまで再度交替することは認められない。但し、コート内にいる競技者が負傷し、競技続行困難となった場合は、競技が一時中断の処置が取られる。（5分以内）その時そのセットに交替し、ベンチに下がった競技者を主審の了承を得て負傷者のポジションにつかせることはできる。交替競技者がいない場合さらに5分延長し、復帰できない時は棄権とする。（相手チームを勝者とし棄権チームはその時点の点数を維持する）
2. 第3セット目を行う場合に限り、2セット目終了後、競技者がエンドラインに整列し終えた時、主審より2分以内の休憩のためのタイムが与えられる。

## 第7章 審判の職能

### 1. 審判の構成

競技は、次の審判団にて運営される。

主審1名、副審1名、線審4名ないし2名、記録員2名

### 2. 主 審

ア 主審は、競技を監督し進行させ、その最終判定を行うと共にコートにおける全責任を負う。

イ 主審は、競技開始のための集合の吹笛をなし、支柱の側近(審判台のある位置)のサイドラインに沿い主審(右側)副審、線審、記録員(左側)に整列し、競技者の集合を待つ。

ウ 主審は、両競技者が集合次第、両主将にサーブ権若しくはコートの何れかを選定するトスを求め、決定次第、両チームによる練習(乱打2分以内)の指示をする。

エ 主審は、両チームの練習の終わり次第、ネットの上段より約50cmのところから見下ろすことのできる審判台に上がり、副審の選手の位置、ゼッケンの確認の合図を待つ。確認が終わったらプレーボールの吹笛とハンドシグナルを行う。その後、サーブ権を持つチームに片手を伸ばし、レシーブチームのレシーブ体制を確認の上、サーブ開始の吹笛を行う。

オ 主審は、反則があった時点で吹笛し、プレーを一時中断させ、ボールインまたは反則の種類をハンドシグナルにて示し、得点したチームの方にポイントのハンドシグナルを行う。その後、片手をサーブ権のあるチームに伸ばし、即座にプレー体制に戻るよう促し最終までスムーズに終了するよう努めなければならない。

カ 主審は、競技規則を十分に習得し、大会最後まで公正な判断をもって、競技運営ができるよう努めなければならない。

キ 主審は、試合終了の吹笛とハンドシグナルをした後、審判台から降りて選手をアタックラインに整列させる。採点表を両主将に見せて確認させ、勝利したチームをコールする。

ク 主審の指示により、審判団および両競技者相互に挨拶を交わし、解散する。

(大会本部へ採点表を提出する。)

### 3. 副 審

ア 副審は、主審と共に競技開始直前、試合球を持ち審判台を主審と挟んだ位置に線審、記録員を伴い整列する。

イ 副審は、両競技者がポジションに位置する際に、主審に相対するコートの反対の支柱側近に位置し、主審の補助者として努めなくてはならない。

ウ 副審は、競技開始前、両チームより提出されたオーダーと競技者のポジションについて確



認し、相違があった場合は競技者をオーダーに基づく位置（ポジション）につかせ、主審に確認終了の旨、明示（両手を上げる）しなくてはならない。

- エ 副審は、サーブ開始の吹笛後打球される時点に、レシーバーのポジションについて監視し、反則があった場合は吹笛し、ハンドシグナルにて明示しなくてはならない。
- オ 副審は、ネット下の守備妨害、ネットタッチ、後衛のアタックラインの踏み越し等に関する判定にあたる。（吹笛）
- カ 副審は、タイムアウト、競技者交替、監督、補助競技者の統御ならびに計時にあたる。（吹笛）
- キ 副審は、副審側を通過するボールのアンテナ外通過を指摘する。（吹笛）

#### 4. 線 審

- ア 線審は、競技開始前、副審に伴いサイドラインに沿って整列し、両競技者がポジションに位置する時、各自時計回りに各々ラインの想像延長線上に立ち、ボールの落下等について監視する。
- イ 線審は、ボールがライン近くに落下し、アウト、セーフかを判断（ボールの接地面がラインに触れていればセーフ、離れていればアウト）セーフの時は旗を下げ、アウトの時は旗を上げる。  
ボールがアウトであっても落下前、一人の競技者がボールに触れていた場合は、ワンタッチ有りとなり旗を上げ、上げた旗の上に手を乗せる。  
また、ボールがアンテナ外を通過した際には、アンテナを指し示すとともに旗を上げ左右に振る。  
その他、線審はサーバーが犯した反則「ラインクロス」等で、主審の視覚外にての反則を主審に注意を促し、競技が公正に運営されるよう努めなければならない。

#### 5. 記録員

- ア 記録員は、競技開始直前、副審の位置する後方の場所に位置し、競技の得点についての記録表示にあたる。  
記録表示の際は、主審のポイントの判定によるハンドシグナルを確認後、記録表示する。
- イ 記録員は、どちらかのチームが21点若しくは15点先取した時点に、副審にその旨告知する。
- ウ 記録員は、競技終了後、採点表（スコア用紙）に誤記がないかを確認し、主審に提出する。

## 6. その他

- ア 試合中に他のコートのボールがコート内に入った場合は主審（場合によっては副審）に委ねる。
- イ 危険防止のため、試合中に隣のコートに選手及びボールが入ったらデッドとする。（隣のコートも試合中の時）
- ウ その他、この競技規則になきルールや競技中に生じる問題については、主審の公正な判断若しくは当協会の協議に委ねる。

平成12年 9月17日改正

平成14年 6月29日改正

平成15年 4月 1 日改正

平成16年 4月 1 日改正

平成17年 4月 1 日改正

平成21年 4月 1 日改正

平成22年 4月 1 日改正


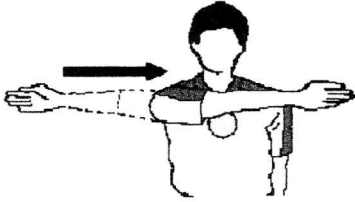
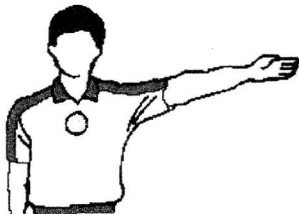
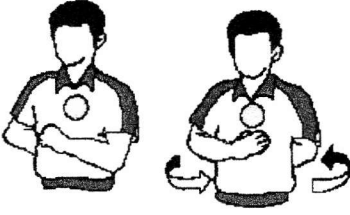

平成24年 4月 1 日改正

平成26年 4月12日改正





平成27年 4月11日改正

平成28年 4月 9日改正

## 第2図 審判員の公式ハンドシグナル

シグナルの種類	審判員	田：主審 圃：副審
プレーボール ①	田	 <p>手のひらを横にして片方の腕を水平にあげ、次に垂直に上げる。</p>
サービスの許可 ②	田	 <p>サービスの方向を手で指示する。</p>
ポイント ③	田 圃	 <p>ポイントを得たチーム側の腕を横に上げる。</p>
チェンジコート ④	田 圃	 <p>左腕は前からうしろへ、右腕はうしろから前へ弧を描く。</p>
タイムアウト ⑤	田 圃	 <p>片腕を立て、その上に反対側の腕を横にしてT字を形造る。</p>

### 第3図 線審のハンドシグナル

シグナルの種類	審判員	図：線審
<p>ボールイン</p> <p style="text-align: center;">(22)</p>	<p>図</p>  <p style="text-align: right;">旗を下げる。</p>	
<p>ボールアウト</p> <p style="text-align: center;">(23)</p>	<p>図</p>  <p style="text-align: center;">旗を上げる。</p>	
<p>ワンタッチ (ボールコンタクト)</p> <p style="text-align: center;">(24)</p>	<p>図</p> <p style="text-align: center;">旗を立て、他方の手のひらを旗の上端に乗せる。</p> 	
<p>アンテナ外側通過、または サーバーのフット・フォールト</p> <p style="text-align: center;">(25)</p>	<p>図</p>  <p style="text-align: center;">アンテナまたはエンドラインを片手で指し頭上の旗を左右に振る。</p>	